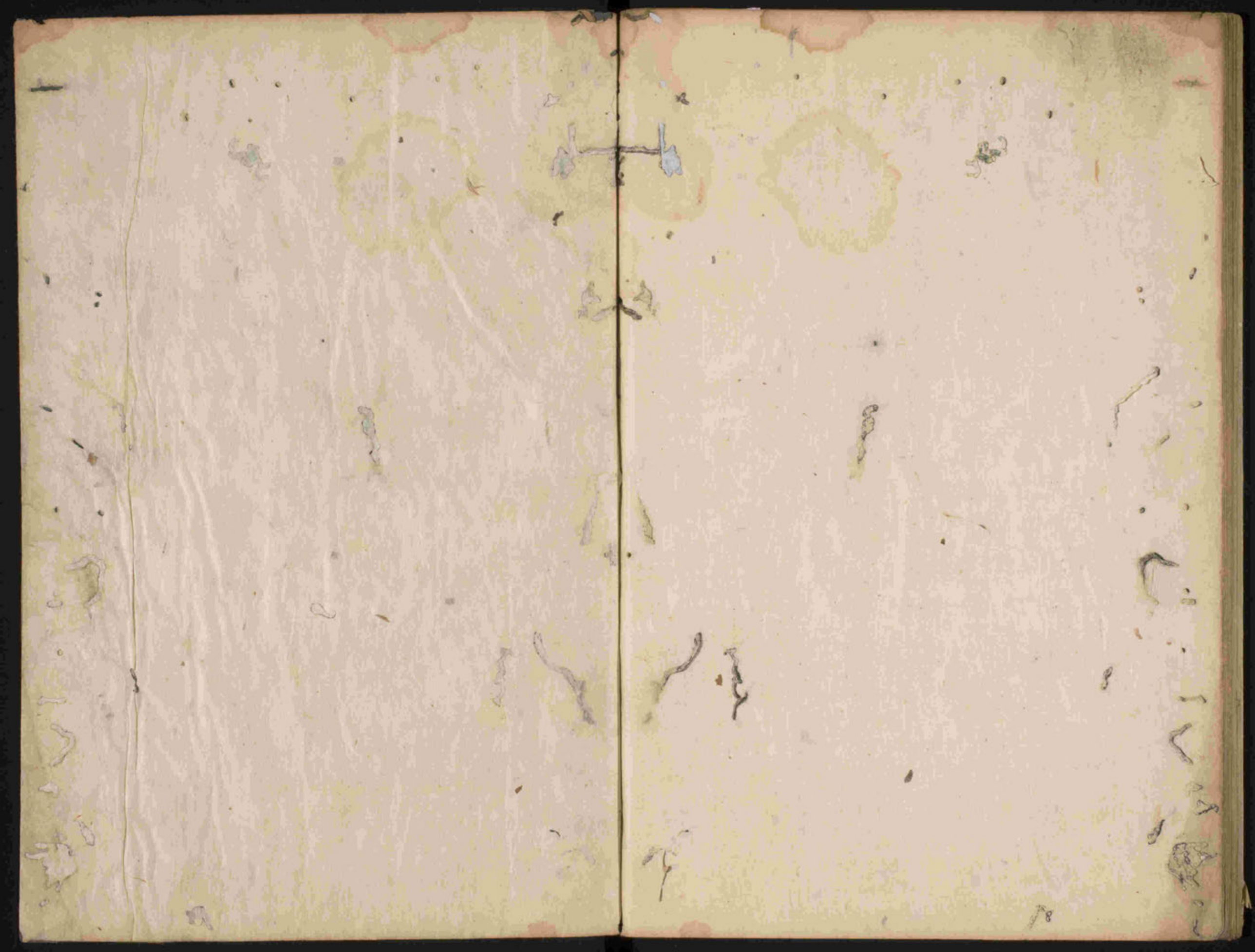
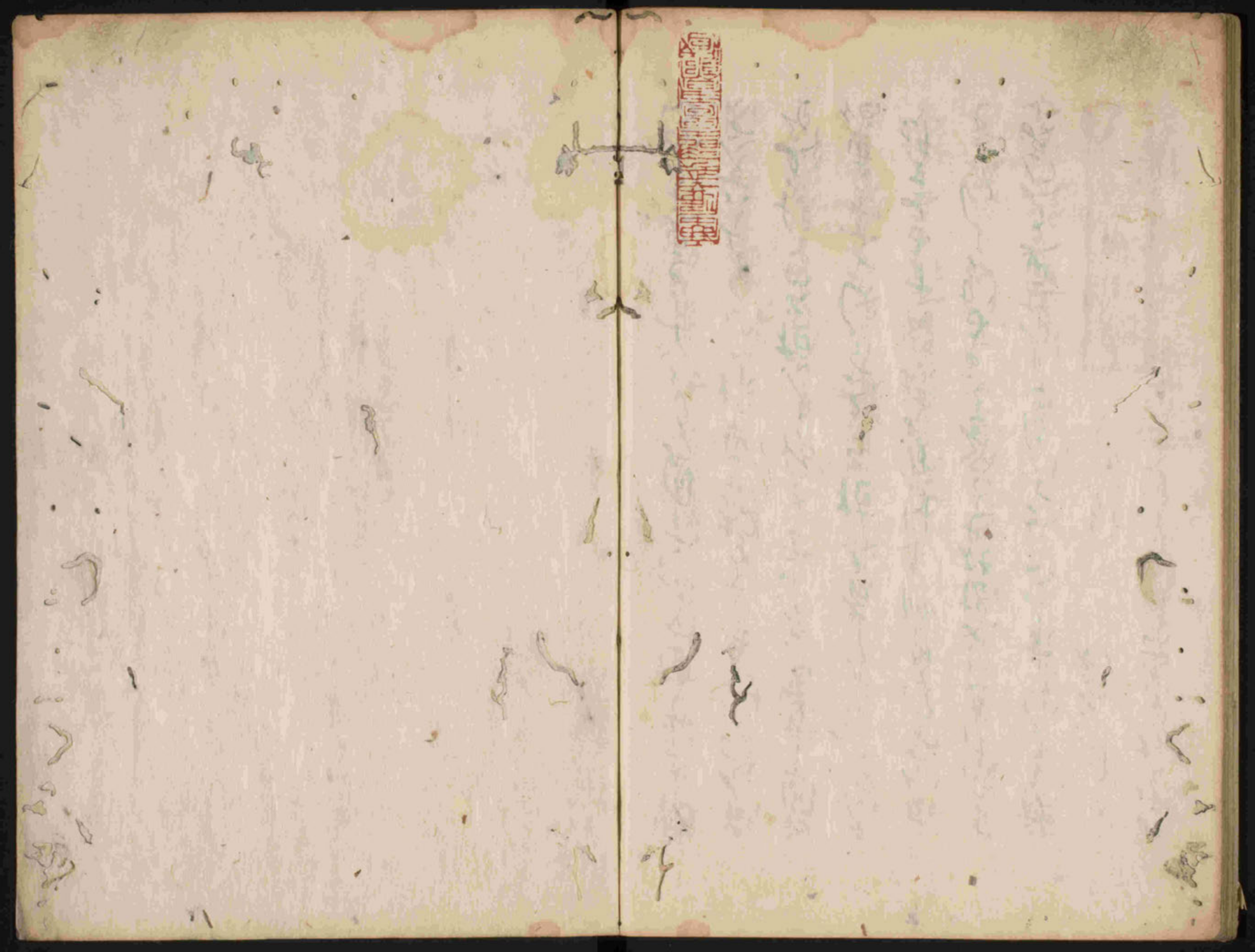




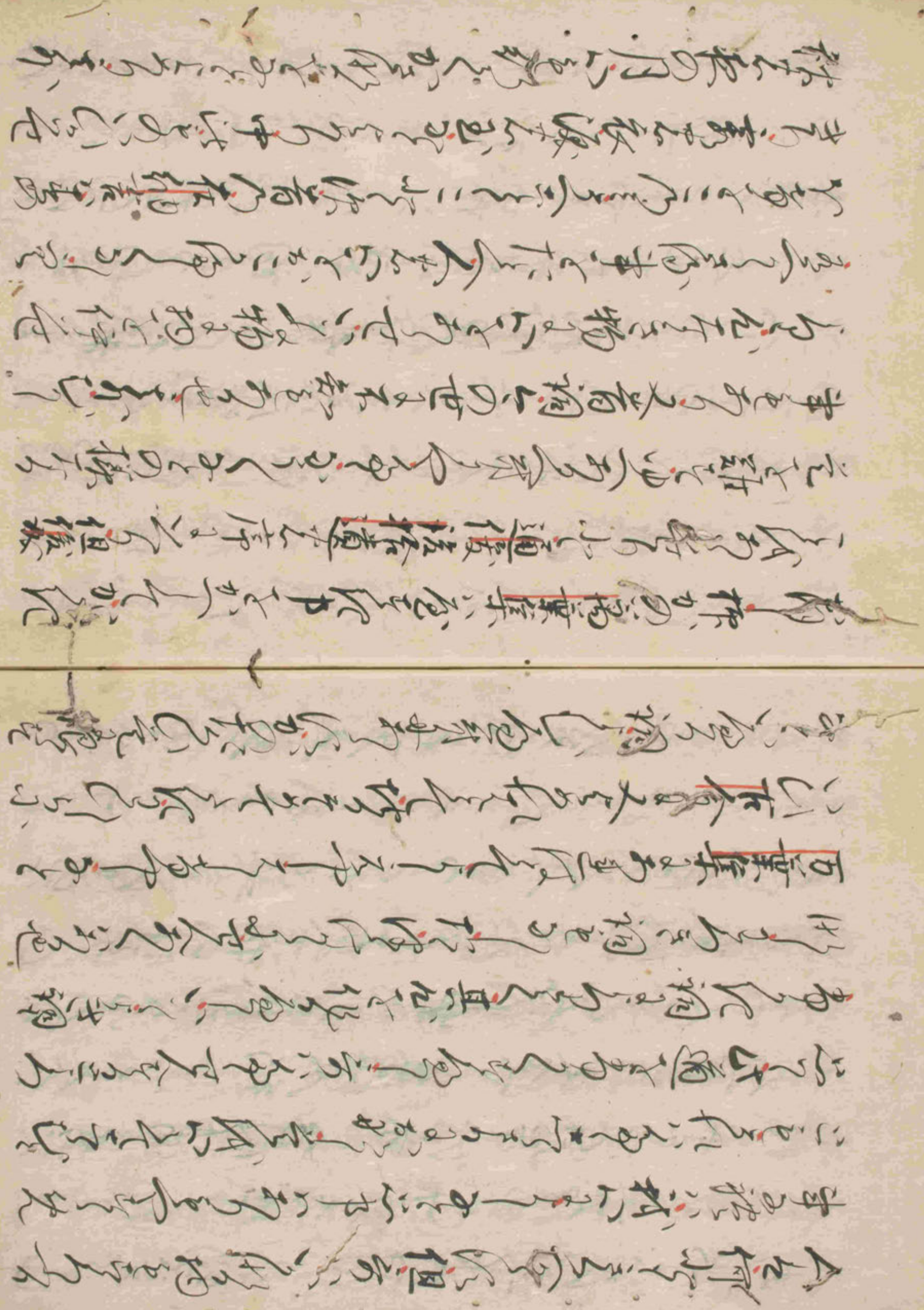
八雲抄第六

用玄部

秋をとゝ申はかゝるを[illegible]
[illegible]は父堪能也とゝ
[illegible]をたゝて師近風骨あ[illegible]
[illegible]申の若斧植之の文をとゝ車化
[illegible]て玄之はかゝ申より作人植之曰これ文て
古人の作を対[illegible]物也車作のいてゝ文人
物よりて物を[illegible]用[illegible]
[illegible]かゝ[illegible]古人精物也[illegible]車を作[illegible]
[illegible]実[illegible]
[illegible]七十[illegible]
文を定[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今はしらぬ事なれば、ものをいひ
ふかくもとすれども、ものの
音をたづねて、ものの中に
はなたれたる人は、箏琴
とも、ことにすぐれたる人の
所のうの海、箏琴の所まかり
所の箏琴をたづねて、所々に長きを人をして
いづくに笛をとり、ハ琴琵琶をい
ひしらるべきをもとめて、
をきく事なかりしを、庭からく又次のをとこ
をきく事なかりしを、庭からく又次のをとこ

事なれば、箏琴は、ものをたづね人、琴笛をきく
あらいそなれば、ものをあきらかにふきたてまつる
箏琴とぞ、ものの人人をもくなをとこ、ほとのを
いつもの、あはれ、所々をたづねて、物の所をたづね
ものをたづねて、ものをたづねゆく人
きこえき事也、又はやく箏琴の所をたづねきこえ人
き所をきくに、ものをたづねて、物の所をたづ
人はのきてものをたづねすこうそなたの人物をまつ
ものをいはぬ、ものをたづねてきこむ



桜花下には流ハあまたとく云袖ふみ子むすぶのさゝくれなゐ
にほふ朝ふ衣ての袖かゝるにほへく一つにまあゝる
花のためにほにや草の花ゆかしかといへるたぐひなほある
なりし花のを或ハかくのことき也詞ニ書られたるを
以人をあつ京極関白の斎合なんどゝ後撰の雪
の歌をとりまさりて此くらべるをハ康資王母かてう
さる中のあらむかたむかし文なん紀行の紅の桜の跡
そのあらも近江をさかの詞をいはれ誰し侍てさる
ぎわん海にうつりうつろふ人をあつかたてまつる也

折まちさくらハ実也きん色なりにほふのしいへるにほひそ
心づけぬれともをしるくゝ種をなやめしよりへ茅まあるに
寂蓮法師の心ハうのむらに侍て村の雨ぬの
さてみとし心おもふろしき物をもすねなき魔みと云つま六
尾さし村也かとふしててさし物をおもふ歌書
いはるすし書の実也安信なきまとゆきの或日元和云
春花猿実不詠古今并早随不知名哥異名
こいれ花なん中にも葉をも此ため玉の中にも玉をさく
此色もといふ陰縁の如く花をし風をのこ道理の秘

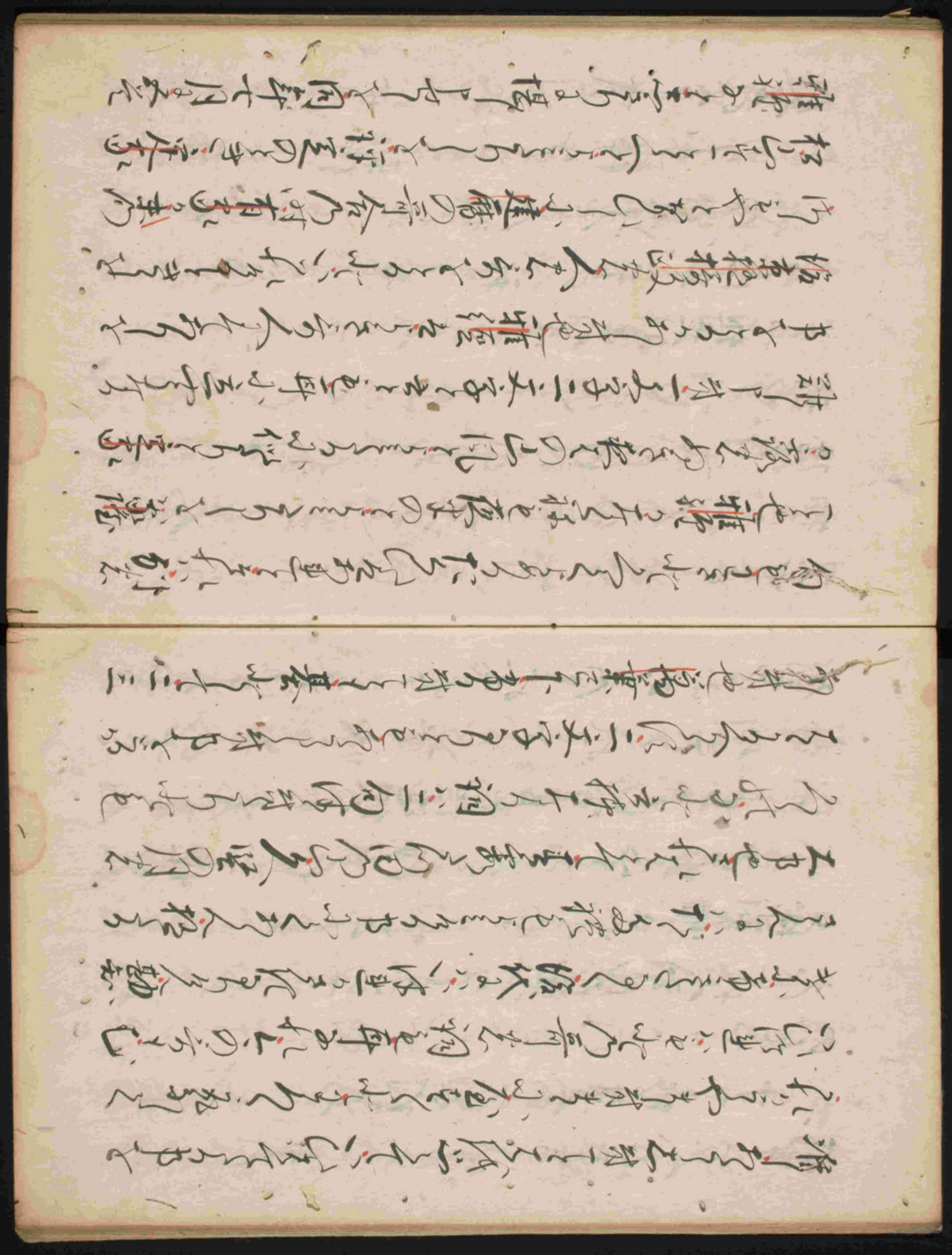
しぎとゝひくゝ、ゑすのはくをとゝ海ゝ名所
みをきくゝんゝとゝふゝ海ゝ花はゝゝ遊
吉野を尋ねゝ山ゝ月はゝ更科をすゝすゝふゝ
つゝ海ゝ俊かりかゝ物はゝゝゝ太ゝゝゝゝ
おり対者ゝゝゝゝゝゝの理をゝゝきゝんゝをゝゝゝゝ
本自然奇をゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝを何をゝくゝゝんゝゝを西ゝゝをゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ氣のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋の月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆへんにてなほふるもなほ更にきこゆるともいはゝ前世の
ちぎりありてまた色ぐさ詩哥の名人をも文殊の
化身なりともおこなひか也といひ伝ふるにたがはぬも猶
うたを詠むは前世の人なるよしまうすに一切経蔵は
よき師匠にあひてよく学するもしけれ共あるへし今云れ
天下をきこえいふはへりつねにしたかふをこそ是也清少納言
枕草紙といふ物は清少の上手なりき紫式
部も世の中ころ云しを万葉集の撰者を
深くせよとあるにはあらねともふるきにならひ達て

尼ことくにありなからにても聞ゆへ道をしらす
長哥の道にくれなはいつれも幽玄を
むねとしてかゝる大事なり也但道の代おもむきにさまさま
にくらしてたゝをにいひかなへはれい文字懐の人
為の財物ともいふてにほひをやすくいふにきゝよく
うけられぬ事のあるもあるくゆのやうにとるてもよし哉
のそ

第一は此道人の云ふ詞をうるおすといへる事
此事云人のえんきあていふしか也第一を



内會の月舟定门尤やまにはよりてそ此そて
ふミハろしらハ作るもの中よの雅經さしも有家と
うやゆく字ふ座きの頼むは云らミれてを存すさふ
うるゆしてさ下の人ハ秋もく此ところすご河云第一の
こらも俊成ハ是あらりのにあらくききうる哥あとを
秋あらしくしくしうしち此山ごくとし中おれり
隆信朝臣ハなとは秋よけし中あらされハ跡よいあら秋な
物てもれせんりの々こと云哥をらミてと人おもも
思せよくくさとも大ときし

第二にあらぬさ海辺の秀句をこのむ也
あかねさすの秀句此ふを海とハ池にすむもを明
くさの岸の月と云ふ云作者それを池によむしめさ
葉宮の月と云ふよりとをよしく作者ハ池にすむ
をとハ云ふれをれを書かきハをあらてよくさ似るら
志らをあさ衣の作をとや律作者上手の中よ
ふかく作りあしくさうおの哥らミ秋かくてを思
こゝのむしにと屯鵙のかうえしめて秋うらえ多此云歌
詞ならハよあらてきうしくそてさこゆ達の山風の

まことにひらけぬるうらの海苔にたち
離れてあるを也

廿三日 詞花八代の
詞の八ぢのはたちへ音のみ明風の夕雲落花
雪とけぐくみを洗ひを也 三重社そあるとこ二ゑし
江の岸にあるを海てゆ 清月人落花夕雪ふ
うらの岸にれい霧と云ひらを
るひらうへ山ほふ人ふく人ふ一ゑをして
て作をを指ふの山人ふ拾をあ海ふ

てすむ山人ふ岸を也ふ山ふを上るひくぎう
たんゆへの波や風ふや雲みとゝ海ふをこゝ
あふゑかるすを山ふをきこゝ海ふ久ぬく秋
さをやをゝ云ふ云ふ岸てをさのを母ふ山ふ
ふををきこゝ海ふ物をを海ふ雲のみを物
むふの左ふをふをふ左ふよみと神ふ事ふ
ふふ岸事をあ主ふ海ふ月ふ出ふみをあふ
ふふこと海ふこゝ海ふこゝ海ふ
事を海ふ海ををきるれをあふふ拾を

面白くおもしろき事にもおかしき哥ハよしなし詞もおかし
清くて言葉に見えてハいやしき世にハまさりけるく
おもしろきをかしき事を云ふ人への詞也是をおもう
に茶おかしき哥ハ耳にも聞えよくてある物の哥なり
定家の云ふ哥にも心をかしき風躰よくてまことあり
その上に御ふかき詞をこころざまハおもしろくのまことに、
人もこの心をよくしる也古今の心とふべき
を古今河歌にもよく本歌風をなをさかるを
本歌のおもかげと云事也云々と云也

一 歌にハ風情のいたり
花ハおもしろきものにして花を人によりて詠ずべし
事をもおほく深くきこゆ稍にすれば哀の詞多きを
雪に松を添ぬ事ニハさしてえもいはぬを花を
舟に月を見てする事ハおもしろくやさしき云
又おもしろきをかしき花に
きこえ事にハおもしろくやさしくてる哉
事によりて人の風情のかくれなきおほく也
御連歌に稍にしてかやうの事なり又

あの海のうこぶ[illegible]月[illegible]人をふかくと
法云八月や[illegible]人とうこうの[illegible]
ちはうまてはふかれをたちの[illegible]
[illegible]のうこうせ雲さ[illegible]月のうこ[illegible]
おうてをもふまをうものをそうせいの人々の
世をいへ[illegible]あまりの風情をうけてうあいきと
うこ人さをうあいすうこ[illegible]を心をうて

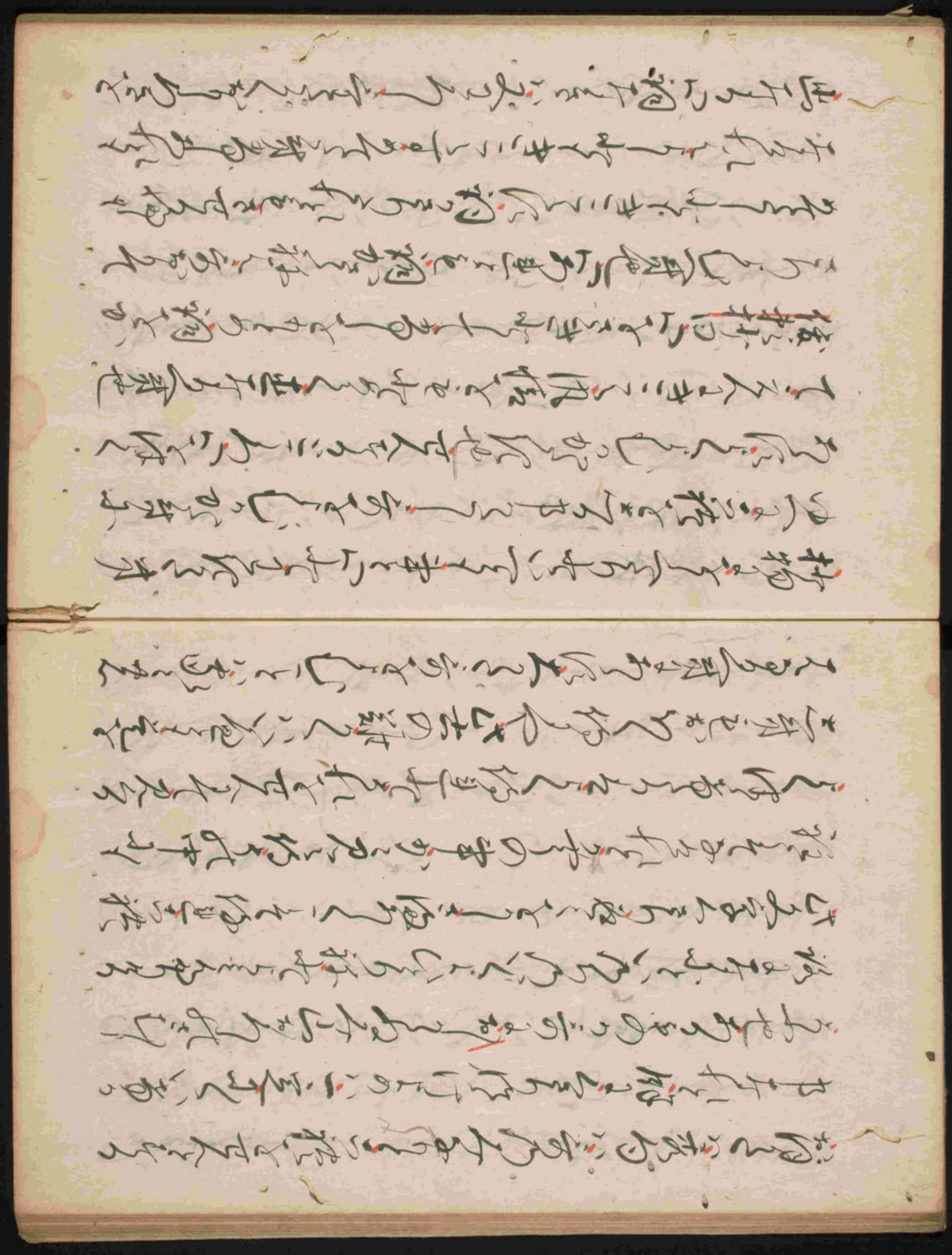
世をいへうこさをの事

たうこ[illegible]の[illegible]をえいうこ[illegible]

[illegible]手ふをえいわさをの[illegible]て我をいうこ[illegible]
おり万葉古今うこの[illegible]の[illegible]
かうこ[illegible]
あうこ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

心はせをうしへ歌よみすせんとて歌ばかりをかき
あつめて一ちらす屏風をかき
うつのゝ心をもかきて詞をかき添
よくて平懐なる心ばせをもてり
△男女ともにくい言をこのむ事
こゝろ強い言葉中まさくあり歌ばかりをいふ
中ゝおほくせこの心へ歌をほくさをり
あるものすきうつの
所人の中ゝあるおほくこのすきをにくい

言をとゝ歌ゝあれとくあり句ゝをとゝ
物語あるさほ所ゝ事あり
書歌ばかりの風情をのはゝ詞をとゝ
さくゝ作り家ばかりのあるもしろ事を
こゝろ人をとゝあるおほくいかゝてきこ
ゆせこの歌ゝうゝ
歌事をとゝ白いとゝ
らをもてい作ゝ歌ばかり
つくゝ歌をよみ



一の事をもつぱらとして諸の芸事せざる
ときは事をふる物にかつがうる
ものとひとしかるべしそれ作法を
おりふしのさゆをしらずしてこれ
を言はんとはなんぞ人ともしからず
事をもつぱらとこのむ色をかくして
ひとに秘してこれをいとなみ
ぬ人をあなどる也藝をいとなむ
ものとなりてこれをうとむ人をあなど
ることなかれかくれてこれ
を学ぶべし

百姓は

百姓のしわざ人々凡そ万の事を
くさぐさにつけて物ゝ方に様をしらず
いとなむ者なり今世一世間の
ことを深く物ゝ知れる人をひさく
あくまでしらず者くくあるべき学
ぶべき物ゝ道ゝ数多の諸芸
ものとなりて一切藝に学ぶべきの
ことなり世の物ゝ人ゝ
しまりてこれを修業すべし

第一は風情をきこゆる事

風雲草木の消息付くかゝりをこゝに風情をもあらしかはを同事なれとこのゝちふてゝ
なをせきにて云うてくわまりは人ちてきとえ
人をきをは心あ風情をこゝちあるせいはいをゝ
ちゝ事なのはいをとゝ本は詞をとゝはよい
をとゝてたゝて風情をこゝちをこゝとあるゝ詞をゝ
こゝをのゝとゝしゝ

第二は心をとゝたゝて歌事

心をきゝふてゝちあまり詞を尽さゝゝん
ゝ者はやくゝこゝさゝのを近代からゝしゝ
ゝゝの方を新をゝ中ゝをゝ哥のゝとゝ
心をきゝふてゝ詞をかゝゝさゝ右ゝ上古の方の
ゝゝ者とゝをゝ方をかゝ抜ゝ少ゝ但方ゝゝ
あゝゝ者人ゝ心ゝゝ心をゝて詞
をしゝをゝゝゝ中懐ゝとゝをゝ心をゝて
かゝゝしゝ者ゝ方ゝ方物ゝ心をゝ

自然也。今の世を見てゐるものは、海さへ
かゝしらみをもちゐはやく心みられも聖人を
嘲るは、海内みな、ものをかりうる世なり
才三は、詩をもて、
詩を、ものをもて、伊勢の心を、ふるい
ものは、心あれと、詩の文あ、自然也。
古来、ものを、云はれ、ものは、
を、人、てゐる、人、ゆきあり、ことを
あるは、詩を、人、海内、
世、ものを、海と

れは、文、心、ものを、海中、海と、この、ものを、かりうる、
ふ、はた、人、海、ものを、天、海、やかて、人、ものを、月
ものを、こゝ、人、世、心、ものの、人、ものを、人、世、
はいかに、色、ものを、海、ものを、海、ものを、
この、海、ものを、人、世、ものを、ものを、ものを、人、の
人、ものを、海、世、ものを、海、ものを、心、
人、ものを、海、ものを、ものを、ものを、ものを、
ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、
探、ものを、人、自然、ものを、近代、心、ものを、
世、人、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、

明めの河せのきりかたくよをもてる人の神
又ゆるさぬ近代の人にて神そなりもて
海にはれいふてこいてくるかきし山の
ちをよいの人ゆゑ相座せりさはいおの一句のくを
わくもこゝゆゑの上下の振よてくふと古ちてふ
又てくり忠命法師の燈くみ言ちきり島へ那を
いかをを仕てこゝて新はぞていやてひくり
又一句一ふく眼をおりのいかをせ方をうこい
おはをは拍ちの更ゆくりするひくりの者也

今のあれは明日の我身をとひくりのいとたるる
ちるれをもてくきこゝ作又ゆくてこゝを
ゆ本はくるく中ゆ句のあぬいさらまおく
ゆこゝて山ゆ島や海の山人のゆくゆ言
中の我をいくゆ句ゆきこゝ海て立ゆさ
句おりて度ての句をやゆ人のゆくせ三れを
ちのやての句ゆてるゆ人をゆおゆ也於へい
天ゆ我をゆくゆくゆる部ゆ更の字仮て
二我を部ゆ我仕ゆ也おれくを部ゆこの

更の字ハすゑのいやさき様にとよむ時ハすこしかはり
ある事もあり侍れバやくせんなき文字なるよしこ
ゝろをおほしませ

并に古今を読侍半

是第一の大事上手にても見わけかたき心のあ様とも
見いれ上手なる人も古今よく読人とわり上手也
中にもえこゝろえぬもあり是ハ二の心得あり一にハ詞を
とりて心をへ二にハ心にて詠む物をみてゝを
詞をよく風情をもつくらし風情をこめ侍ハ

是見なし心をよく物をすてハたゝ人ハ古今なと
云ハ月影うつしと人ハ根をせハとよみ侍ハ
万葉に秋風に梅さかりと昔ハにてなり
ならひぬるとしといふ事をよみける是ハこゝろ
詞も色をとりて梅を月にかけてよみたりせられたるに
二様にかきて侍る詞をよく心をとりてハ文におほし
万葉集云みてをハ本に読やうにてもみえて
そうしをかつくよみもおほし人一とハ夜話て草紙
志のくもいひをしてれとも風間さけりみりとしふ云を

とりて　といふ　なる　野の　ふき　くさ　ふた　ぶた　ちり　ゆの
山ら　花の　ゆふ　せく　こと　ゆ　ゑ　ゑ　ゆ　人を　せん　ゑ　ゆ
ゆ　ふと　山　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

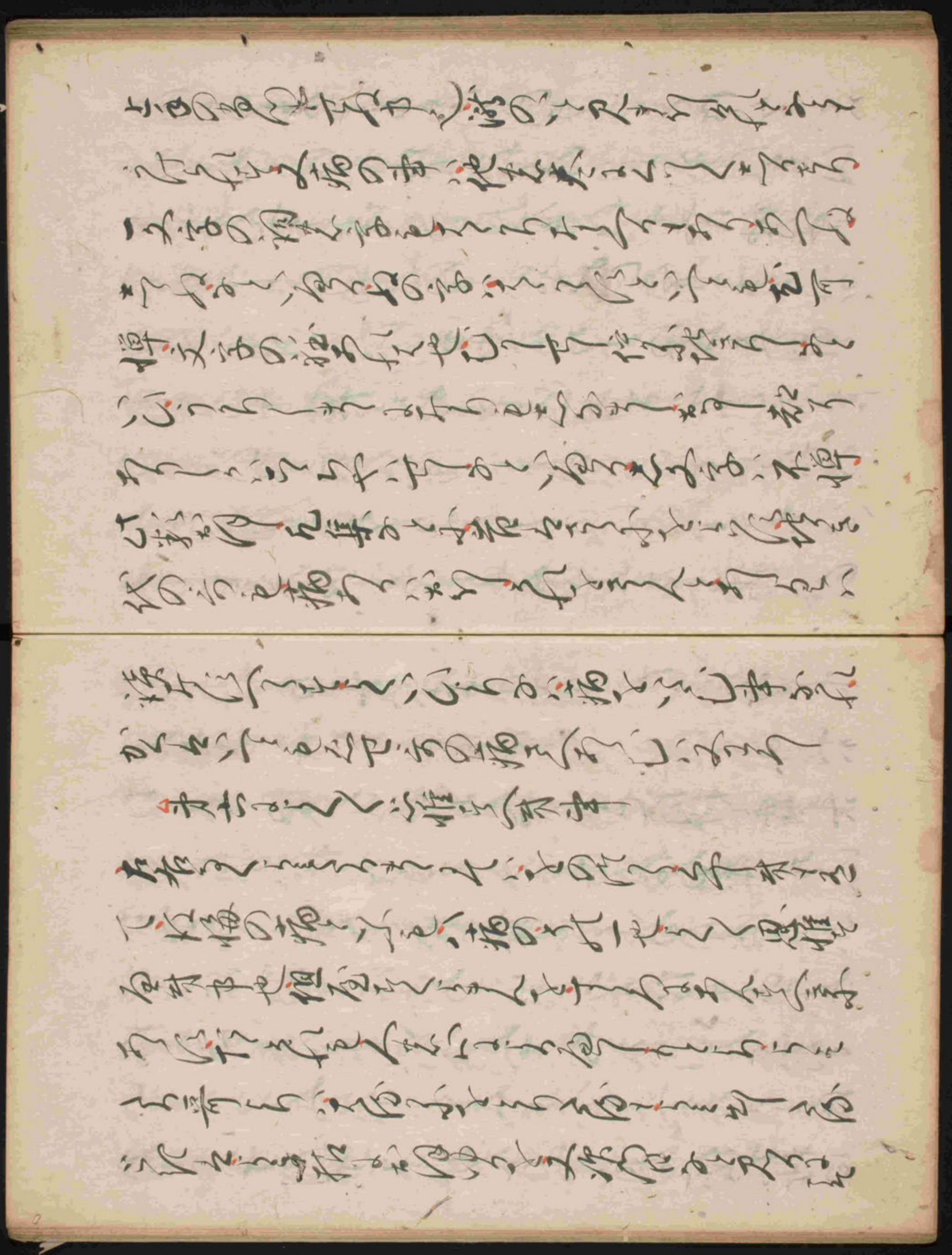
魔せたまはゞ近代後鳥羽の院のうくとも
事なりけりやうにやうにはれを物ものがたりをゝふ
にうりの方をとゝんなゝ先代の歌の方をゝ又歌也
東三条左大臣の折くかたしをうやと伊勢
船恒の老をくれなこの歌をよめるすこし物き
世のたりせ朝忠の方をゝ宮内をとゝる
ゝ言ゝいつゝゝ思ゝくゝ思ゝをゝ物ゝ
ゝれゝいゝ方をゝ作はよゝあゝ物ゝ
ゝ歌ゝ方ゝとゝ所事ゝ方ゝ海ゝ人ゝの歌

海ゝ一のゝゝれゝめはゝくゝゝ人ゝ物ゝ
ゝくやゝ思ゝくゝ代の人ゝ海ゝの物ゝゝ
ゝゝあゝくゝゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
上ゝ代ゝゝめゝゝゝ百葉集一とゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山水立てふをてとしふ事

色いろくろくと三十一(年)あるかな
事たれたてふをてしけ
あてせんとゑびくきこ
てふをえの所あひら事
浦るこ風よ霧くれく
ふ字所合れとあらを
きてはかり我力と草
をふをたれ人をとを

又てふをえの拍をとてうせ五言と小物うし
ゆをいはをてあうりてうをとをえ
わくいはをうえ所
こと歌の事せたかか
わくたうりえはを
うの耳よう所事か
ひて方久人をうはくを
いるうえ字はを作り
とのもの者をるを



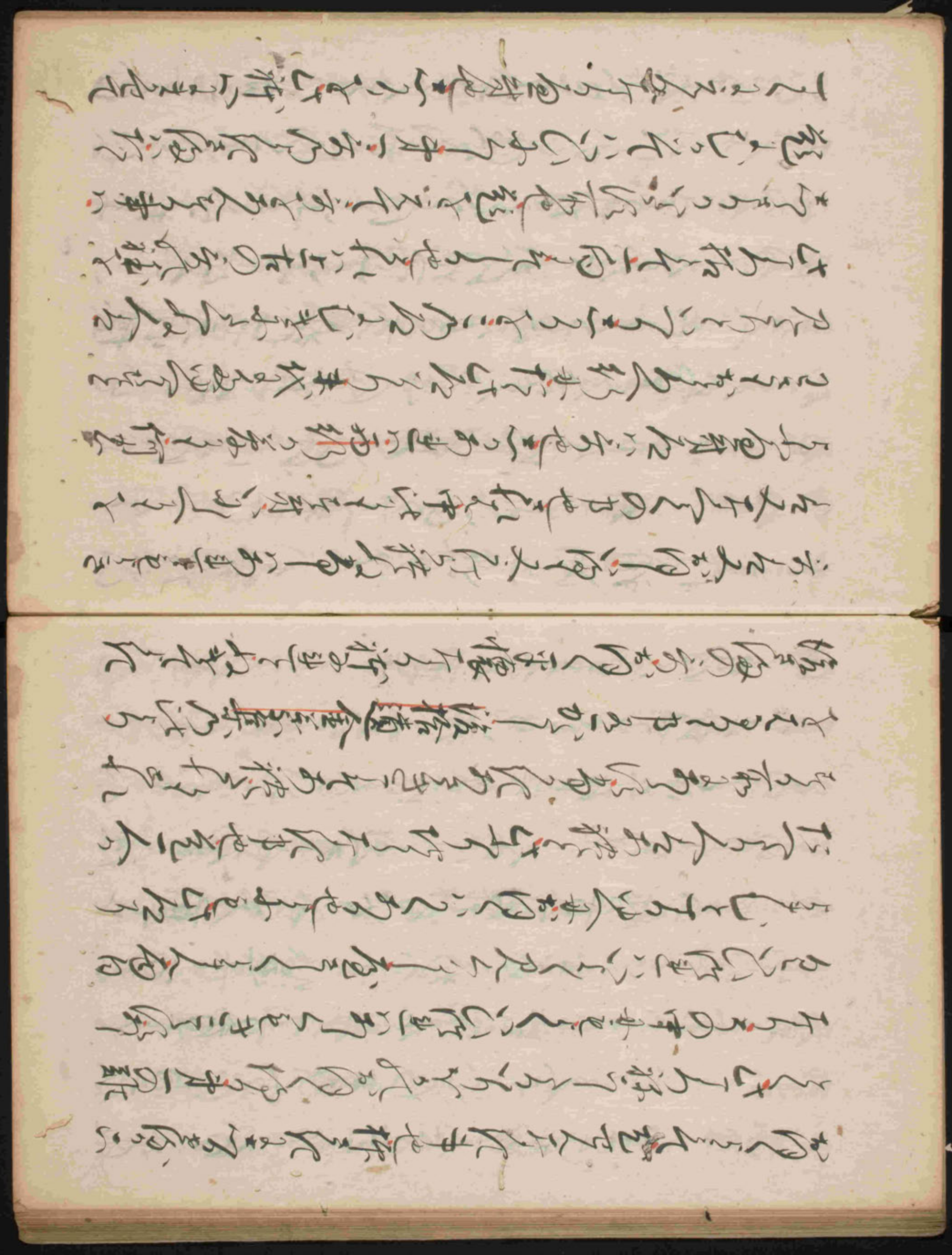
又ためハすゝまずしてハおんなじ事也俊頼朝臣
いとめくらんをかゝくえしらかりへせおこくしゆ
御せんをきくらさいふすへとやすみふさへとすき
かゝふにえかつかゝれさ事あれハたゝりとのさん
よへのまさくらゝくらゝ出来て事也といへり得てゐ
きこくらす様人とくもかくも被思事ヲあつ
たゝく御出入を被おこせしも也周枡に貫之ハ
一首を十日廿日ばかり案じけるといへるをも毎たへハ
の事とや貫之毎度十日廿日などしけるハおろし

たゞこれを云をおんなじからぬ事をいふ也貫之の
秀歌とても云の葉を撰びて集めて下おもひ
毎てあまり居をあつくまへ其詞をあつむ也ちくも
保季行能など詠の云人なる庭を見ひさて
同事也なふをあらぬおもくひ芸しおんせとをかせ
さる人事ハ力なし只人よらぬ事なりへ其にて
あるかゝ顕昭法性寺入道の道へ治なて何なる久遠を
不事をとりせ待たりよみて人云をきて哥良人
紛なれども清輔一人哥を得させたりといへり

言葉をあやまりよく人をうかゝふ道ハあやまりてハそのまゝう
かゝる也しからハ哥よみの代々の名人ことに
こゝろへをもちゐしをあんしてよむへきにそよからぬ
よき歌よみてハいにしへの何のせん人のわたく人にも
いはんや哥をもてかく秀歌よみてとこそなれとも
いふ哥たるへきハ人の哥をまねハ何
そのせんをまもしせんとなることハ何ともいふへき
哥ハたゝいらぬの事にてき物也とすまねて
よくハ又哥の秘意をふくこのすゑまでもへ

言葉をあはれせとふくこのすゑにはやく哥よみてと
ことをきゝ哥おほしをきくこゝろにハいねてもよしと哥也
のちの世にハ道ハおほつかなくといふふみりしハなきにも
かれゝの哥事をいひそめしそれにいともこゝろなハ
はしめて人の哥也又よくをきゝてよき詞おほしさも
こそハ物ことひとつ物にひとつのならぬ道也人の物それ
あはれなる心にハいてゝ哥せよと哥なる也
よきハ詞の詞ハあらしをかしく又わかれしとしてしるか
見てもよきこゝろハ歌の事おほくなくさみてよくけし

えいはるとあるじしたりけるに
ちりそすぎぬといふりてきてなりてちりぬ
句をえ下句をたのみたるに明の月をこそたのみを
まれにうくるといふ句をつけてはなれぬ秀句にぞ
をそのようなる好事也俊頼朝臣の中納言
なりかるしらなりかるとあるとは海とあるをきこえ
ぬ人をせいまのくるといふらんなれらよりて
うるへんいはをは朝臣をきるせられ朝臣
朝臣をめいはるとあるをしるしをしたるを
ぬるをいきてのそたるをしたるをしたるを
をしたるをいはるくさるいはるをしたるを
くのをくをたるをしたるをいはるを人
ことのをよいはるをしたるを人の
らるをしたるの百をををを百をを
らるるをいはるをしたるを還亭の
をあるをしたるをしたるを百首をを
あるをしたるをしたるを百首をを
ふるしをあるをしたるを
をふるを一首二をををを

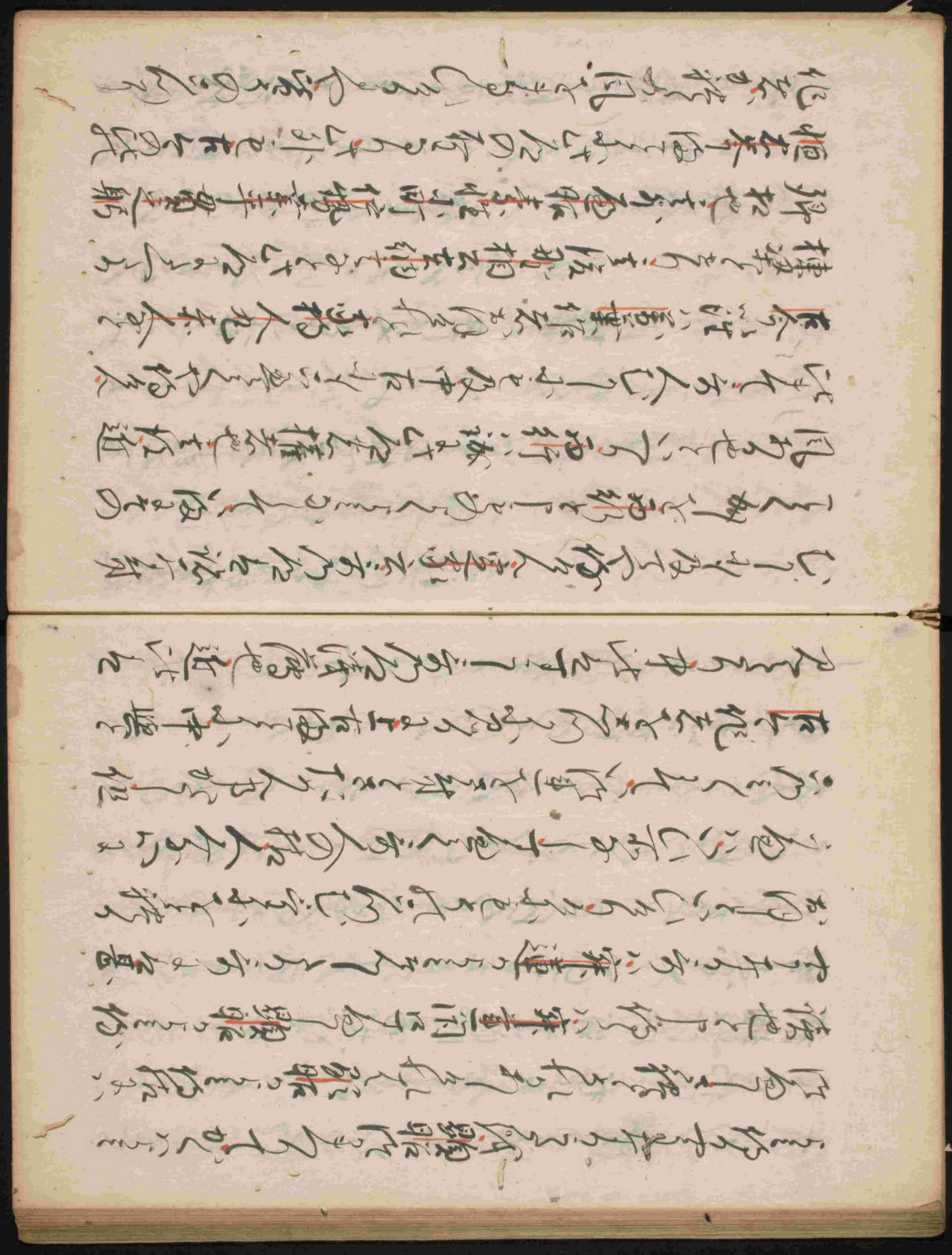


いひきたるかぶこのりてえんにかりにせえむ
たんとをれてかるるほどにすいをくるんとすれ
みえんるさまもせたえんるをもふをたるふ
横目をもたるさまはねへすいふをさ
らんとやきくてにたるきこのをぬしせえ性堪
能をんにをえんたるこにたるをえるを
目をさるまたるたまとくこはけめたる
るあまをおるくにひるをんせむしるる
ちきたる初は生るにんたるい

ひるおりてめたるせえ与目をけるに下句の
かまくをくよ下句をとかゆくなををくふ横目
上下ふるをくるにんせえ上下ふるみをけるに
いまを表紙にをたきるたるをまんを
るる半せをえるを横くをたこのるるにんを
句にをにんをるをとりて年をるまあれるを
をのをるにより半るを横をたるくなるんを
このをるひるを目ををたるるるを横を目をえを
むをるれるて目をるをにるを人をあるる半

御堂関白道長公の法華経書写供養願文

もろもろの人とともに
心を合せてこれをきくに
昔の初会の説法の座
拘尸那城の娑羅林
鬼神の座を分ち
かたじけなくこの心を
みなをあまねく
事也是八部衆
てわれら凡夫
きこえたてまつる
昔の序品
ものかたりの
未来
ものがたりの
いくばくかの
事ありしかども
法華経
とくの
ものがたりの
とくの
ものがたりの



名ゝ[illegible]を[illegible]次世[illegible]ふかきゝゝ[illegible]代集より
[illegible]ゝゝ和歌堂の五人のなかにてゝ[illegible]の五人
四人の撰者より及[illegible]ゝ[illegible]能宣元輔を為定代と
上[illegible]て[illegible]の人也順又[illegible]代よりあらはれ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ古者也[illegible]時又[illegible]たゝ父ゝ[illegible]せゝ[illegible]
[illegible]重[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

上[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ばかりなれば為方長を
[illegible]この君達[illegible]
[illegible]なる元信の院よりの
[illegible]神を[illegible]これ[illegible]
[illegible]の[illegible]流を[illegible]
[illegible]人[illegible]延喜の法[illegible]中興[illegible]
[illegible]て[illegible]定[illegible]文の[illegible]
[illegible]為[illegible]隠[illegible]
[illegible]の自出[illegible]
[illegible]花山の[illegible]女房の中[illegible]

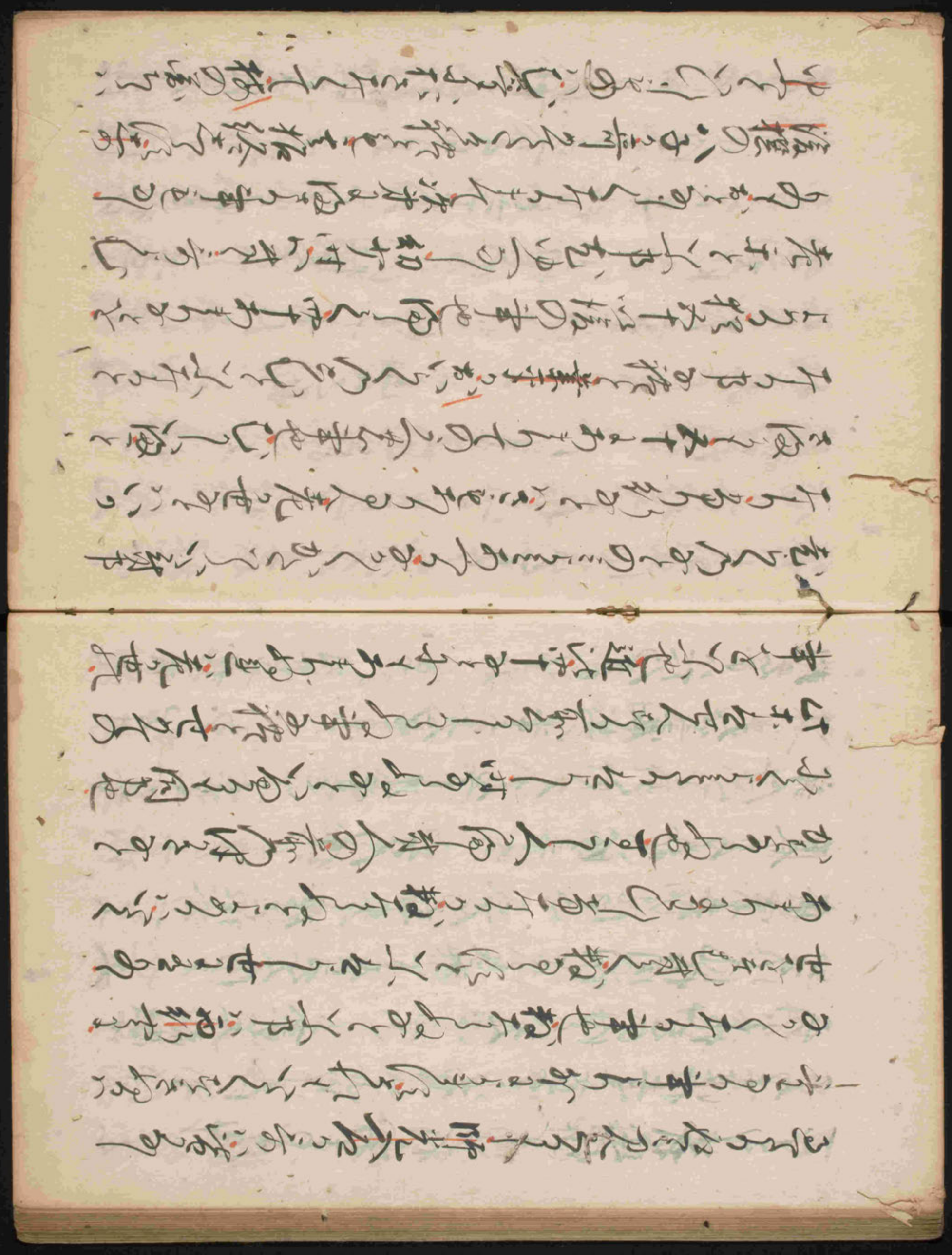
此[illegible]一条院[illegible]
及[illegible]
[illegible]
天下[illegible]
遣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

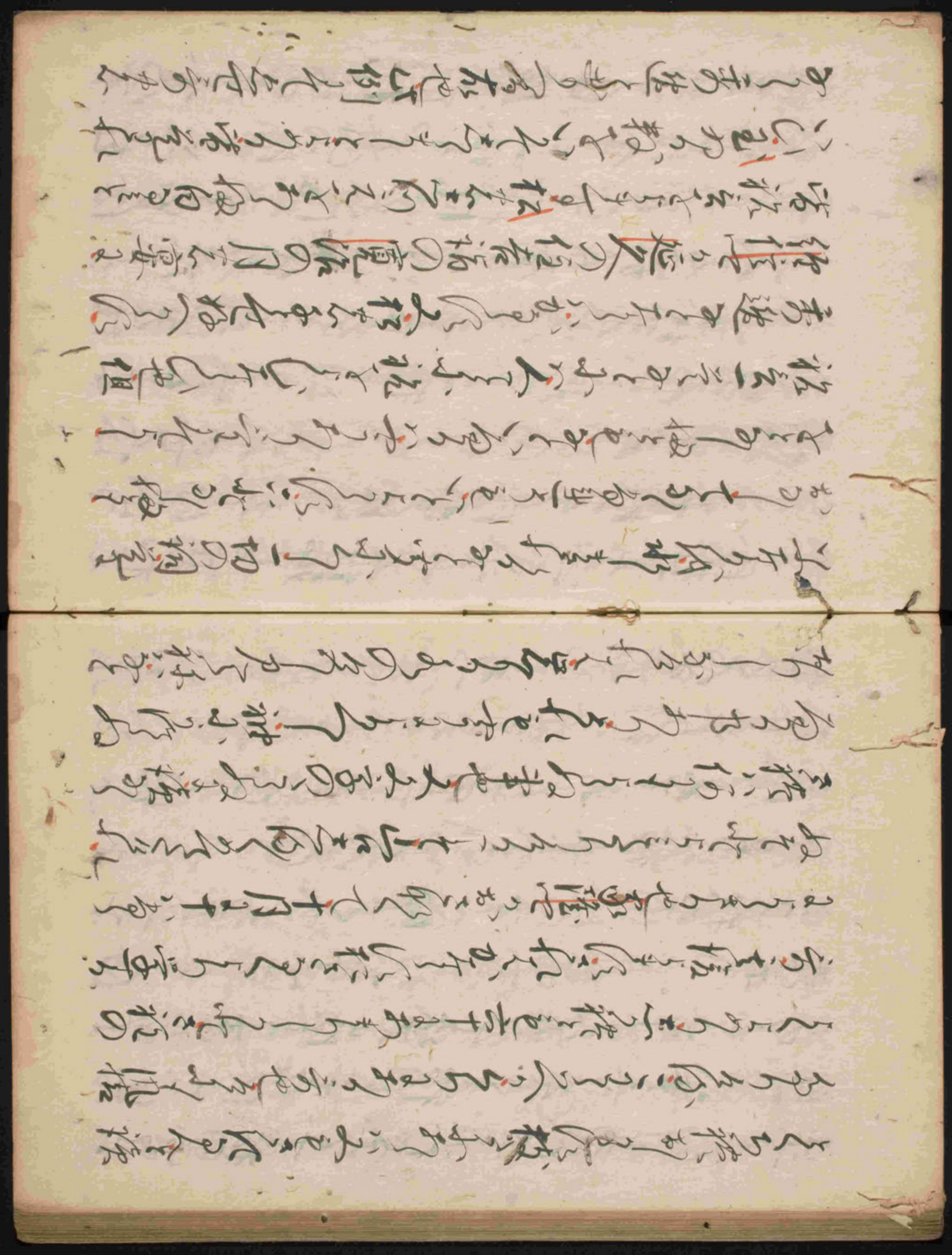
通俊と云ふ人をもつて也連房に云はせて
ものをあるを通俊むしひきの海のいそ辺の松賊
もし行平の中納言の歌をこゝろ行と
為り連房のいくらもなりさるべき作の中に
紀信のいつく神賊よりこゝろ歌師宰相在納言
云ふこそ作法にて云ふ所をこそ
こゝろ有り作者の事を知る尚特の名誉と為
代の名誉をかりそめにも通俊連房を
賢人にこそ作るべし作者の名は同日の論
あるべき連房を陰謀の法にあらず向後は云々
連房を理は折々いとの事なれと言情況分合
云ふ通俊の云ふ所の事はいとのたまひあまの屋
祢宜とをとりをとをとりの多の祢じきふ
をりあはの云や祢おとりと祢をとをとりの
祝ものたく紀信一人天下の判者にたりし共
かを連房俊祢をと計也さて八月誉を堪能之
人の祢を信正ときに作者今生の事を
祢をへしるをむ祢おとりまの 正実圓信題書

弟伯女より周防肥後廉資母なと云神の方今あれ
ともむしろ小さなりかなしかりしを基俊と云者この
人稽古ありて俊恵はなをあらはれあり世にあれ
人の世にて二の流りといへども方の俊頼
朝臣天下をあつめたりて俊恵和
尚をもらを同じ方にしてふたりして
年とをもらを同じ方にしてふたりして
人をもつてこれ法性寺入道前太政大臣の
をもつてもらやうく久安の半ばこれ
百首ありとそらり俊成清輔西行法師なと云
人々はよたへさらるとみひろまりもせ九中比より
ことに人道よりそ形たる俊信卿
西行の法をまなぶ人をもつて
和歌をかたりて歌人をいひつたへ但
人々の堪能にて云世人の歌
ひろまりて二定平懐なるいとまあり
人をもつて俊恵俊成をいはまはりて
歌をまなびたりて俊恵はの
祇の道をまなびたりて天性しるり

をとりぬまぬかへよりたれかの拍子をうちて
取あつ山ぶとこゝろまいまんのいとうをきれおして
ぶをとりくをとりて三ぶを近年の人をいかなる
けしたるすものよりえらんらして我ら乃名をい
ふてさらせ碁囲法師の伊勢のこの家乃松をたく
東ちかりなんまてこたくを近年いたる人をい
ぶををれんきをうまん古人とは書世法師いかなる
ふゆをこのくらのひくく人の美よりも長能い奇乃
詠をひくくこゝろをかしかりしかりをいてり式い命小

ぶくこ一芸秀逸をえたる法師をあらくくさら
よいへをあくくをへ対せ古人をいかをこゝめ
多年一定せ先年古今の方乃こゝをかりこゝ
をかりはつ小事あり対古右をい何をたくたひり
しを小所美よたていくく我を伊勢をいなひら
女ふのをあくくをいをこゝ合みか伊勢いたり
我を右をいかをれくくをいあ事あり対へせをい
美美くをちをまをかの巻物をひくく対人乃
はひをこゝ小伊勢いたせ小所いたせ乃右右を定め





祇園社の社僧作者の名養寿丸
みをとなのりて文祇園
社のもとにこもりこもりて此風
うへ人をかたらひて夜もすがらくけうの代わたまり
きゝふまれ代の人心のまゝに吉兵をきゝし美結
吉曲の名をむすび一物といふうへなを
人新をよろこぶさいかのようをきゝて今の世人心
をうつしてはやりをなしあきたりて涼きつを
はなれをうへさ事也云伝弾左寛和元
はり天下無双の方人たゝてゝ二百歳と色
うり在世のはいつまをゝ猶信仮初に上坂
俊成の存生ていうの月日のくるゝ事
近はりをなむ事せて云事也ゝて淺くなり
半ばかりの芝山三十余年のもせきはなのの
をいすてゝいるあるをゝ歌て
一向をなるそのかゝ事也貴之をはを
天下をゝ事ゝきこゝは音の魔界一りり
なをゝ伝ゝの養養ハはすゝ

[illegible]のことはなくそれを道
理にかなうようにすること
しかしながら名誉ある人をこの世にあるべき
お方の人や近代流行風あるべきこと
なるべくおかりあはたらきをこのしかた
ある秀句をこのしかたをもって
人をあり方を理にかなうだけにすれば
ふるく秀句をふるくふるくしかたを
[illegible]

奥義肝心をよくよくこのことばを
とりあつめゆめゆめ他人に漏らすべ
[illegible]

CCOX
630
5
5